



ケアの倫理を教える・学ぶ・実践する

Teaching, Learning, and Practicing Care Ethics

会期：オンデマンド配信 2021年5月20日(木)～6月30日(水)
ライブ配信 2021年5月29日(土)・30日(日)

配信形態：
🎈 オンデマンド配信のみ：5/29(土)～6/30(水)
🎈 ライブ配信のみ：5/29(土)もしくは5/30(日)
🎈 ライブ配信後、オンデマンド配信：5/29(土)もしくは5/30(日)～6/30

* 一般演題はオンデマンド配信(5/20～6/30)いたします。

◆ 特別プログラムのご紹介

会長講演 🎈 「ケアの倫理:対話のプラットフォームから共鳴する看護実践の価値」 八尋道子(佐久大学)
座長:吉川洋子(島根県立大学)

「ケアには他者の時間と他者のやり方による成長を信頼することが含まれる。」このメイヤロフの言葉は私に看護の喜びを呼び覚ましてくれる。トロントの「連帯」も然り。それらを紹介しつつ、ケアの経験や看護実践、看護教育の価値について参加の皆さまと対話し、近い将来の倫理的行動に繋がるような時間にできれば幸いです。

基調講演 🎈 「尊厳を高める看護ケア:ケアの倫理のアプローチ」 Dignity-Enhancing Nursing Care: A Care Ethics Approach
クリス・ガストマン(ルーヴェン・カトリック大学 ベルギー) 通訳:小西恵美子(鹿児島大学) 座長:八尋道子(佐久大学)

本講演では看護実践の核はケアであること、ケアは患者・家族・医療者等の人々が関わりあいながら進むプロセスであること、したがって看護倫理の基盤はケアに根差す必要があることを述べる。そして、その視点に立って、看護倫理の枠組みの基本を提示しようと思う。

教育講演1 🎈 「認知症高齢者の意思のとらえ方」 堀内ふき(佐久大学 学長) 座長:安川揚子(佐久大学)

認知症の人のケアをめぐる倫理的課題を考える時に一番基本となるのは、認知症の人の意思、意思の自由な表現に始まる。看護職だけではなく、家族をはじめ、医師、薬剤師、介護福祉士など関係する多職種と深い意見交換を行い、自分だけで結論付けるのではなく、本人にとっての最善を共に考えていくことを目指したい。

教育講演2 🎈 「よりよく生きるためのACP」 鶴若麻理(聖路加国際大学) 座長:足立智孝(亀田医療大学)

アドバンスケアプランニング(Advance Care Planning:以下、ACP)は死に方を考えるものではないし、終末期になったら考えればよいというものでもない。私たち一人一人が日常的に考えていくものと言えるが、現実には、何らか医療との接点をもつ中で考えることが多いだろう。ACPにおいて強調されるプロセスとは何か、また本人主体のACPを実現するためには、何が必要なかを改めて考えてみたい。

教育講演3 🎈 「care と ethics の語源とその本質」 江藤裕之(東北大学大学院) 座長:竹内幸江(長野県看護大学)

本研究集会のテーマである「ケアの倫理」から、「ケア」と「倫理」という語の意味をできるだけその根源まで戻り、その本質的な意味に迫ってみたい。医療実践の現場で「ケアの倫理」を考えるときの参考になれば幸いである。

教育講演4 🍷 「教育計画やラダーを指向した院内研究と倫理」 座長: 中村充浩(東京有明医療大学)

◆院内における事例研究実践および指導展開のメリットとデメリット・倫理的課題について

太田浩和(鹿教湯三才山リハビリテーションセンター)

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院では看護・介護福祉士に対し既存の教育計画・ラダーに基づいた看護研究実践を推奨している。研究のスムーズな実践とそのメリットを発揮する為に本当に必要且つ求められるものとは一体何であるか? 注意すべき倫理的課題とは何か? という点から、参加者との率直な意見交換を行えると幸いである。

◆「研究に取り組んでよかった!」と思えていますか? 高橋百合子(長野県看護大学)

看護の質の向上や看護継続教育の一環として、多くの施設で意欲的に院内研究が行われている。多施設に共通してみられる「研究に取り組む意欲についての課題」と、施設によって違う「研究支援体制についての課題」を解決するための方策について、みなさまとのディスカッションにより検討したい。

◆教育計画やラダーを指向した院内研究と倫理 前田樹海(東京有明医療大学)

看護師が様々なフィールドで活躍する昨今であるが、その場がどこであっても教育を目的とした看護研究が一般的に行われている。たしかに看護師が自身で研究を行えば、論理的思考能力や批判的思考能力の涵養には役立つだろう。しかし、研究の第一義的な目的は教育なのだろうか? 本セッションでは、真の研究の目的について考えてみたい。

シンポジウム 🍷 「倫理的行動を促進する看護倫理教育の実際と評価の視点」 座長: 大生定義(新生病院 院長)

◆臨床看護師の倫理的行動を促進する教育の実際と評価の視点 福宮智子(昭和大学病院 CNS)

倫理的行動を促進するために、「必要だろうけれど一歩が踏み出せない」ことがある現場の状況を受け止めつつ、その一歩を支援し、その人その組織の力を促進するような教育や評価について議論できれば幸いである。

◆がん看護の臨床における倫理教育の実際 市川 智里(国立がん研究センター東病院 CNS)

当院では、がん看護専門看護師を中心に「看護を語る会」を定期的に開催し、多職種で倫理的課題について検討する機会を設け、医療者の気持ちを共有している。患者が適正な医療を受け、がんを患っていても患者がその人らしく生活を送ることは医療に携わる者の共通の願いであり、そのための看護師の教育体制や活動等の取り組みを紹介する。

◆臨床看護実践とリンクした集合研修と倫理カンファレンス 山崎友香子(信州大学医学部附属病院 CNS)

私が現在取り組んでいる具体的活動とモラル・スペース (倫理的な問題がある場合につねに話し合いがもたれる医療環境) への考えを紹介し、倫理的行動を促進する看護倫理教育について皆さまと意見交換をしたい。

市民公開講座 🍷 「幸せな死とは何だろうか」 座長: 眞弓尚也(東海大学医学部附属八王子病院)

◆世界の安楽死現場から見えてきたこと 宮下洋一(ジャーナリスト)

2015年未から、スイスを中心に、オランダ、ベルギー、アメリカ、スペイン、日本の6カ国で安楽死の現場を取材し、『安楽死を遂げるまで』を出版しました。安楽死取材を開始してから6年。医師や遺族にもプラスやマイナスの変化が起きている。安楽死の賛否を語る上では、この変化を知ることが重要なはず。短絡的な議論で、欧米の「良き死」を真似ようとしてはならない、と私は考えています。

◆人工呼吸器を付けますか? 心臓マッサージをしますか? 伏見礼子(長野松代総合病院)

多くの看取りを経験してきたが、家族の受け入れ方はそれぞれで、一つとして同じ看取りの場はありませんでした。「身内の死」を「生」の延長線上にある必然と捉え、最期をどのように迎えたいかをご家族で考えておくことは、死を迎える患者さんにとっても、その後、その死を受け入れ生きていくご家族のためにも大切なことだと思います。ご参加いただいた皆様とともに、幸せな死とは何かを語り合い、もう一度深く考えさせていただけたらと思っています。

* 以上、抄録集より引用転

COVID-19 特設セッション 🍷 ファシリテーター: 鈴木真理子(長野保健医療大学) 高橋梢子(島根県立大学)

医療従事者への COVID-19 の影響は想像を超えるものと考え、現場で働く看護職をエンパワメントしたくてこのセッションを企画しました。pandemic の語源は、ギリシャ語の pandemos (pan が「全て」、demos が「人々」の意味) ですので、「全ての人々の (of all the people)」という意味になります。感染は誰にでも起こり、良い悪いの判断は論外であり、我々の社会から感染者への差別や誹謗中傷をなくさなくてはならないということです。キーワードはこんなことを考えています: 絆、孤独感ではなく連帯、看護のアイデンティティ、看護の力。現場の体験や思いをここで発表していただき、元気が出る対話の会をもちたいです。

このほか、一般演題・交流集があります。プログラムの詳細は大会 HP をご確認ください。

参加費: 非会員 9,000 円 会員 8,000 円

※5月8日(土)までに参加登録をされると、抄録集がきます
多くの皆様のご参加をお待ちしております



<http://www.procomu.jp/jnea2021/>